

横浜市立戸部小学校

令和元年度 学力向上アクションプラン

1 中期学校経営方針

(1) 学校教育目標と教育課程全体で育成を目指す資質・能力

- 学校教育目標：「それぞれが飛べ みんなで翔べ ゆめいっぱい戸部」
- 教育課程全体で育成を目指す資質・能力：「夢をもち、夢を実現する力」

(2) 中期取組目標

「子どもが主人公の学校」

200mリレー

(3) 学力向上に向けた重点取組分野・取組目標・具体的取組

- 重点取組分野：確かな学力（横浜らしい教育の推進） ※担当：研究推進委員会
- 取組目標：「夢をもち、夢を実現する子ども」

生活科・総合的な学習の時間を中心に、「戸部のまち」との関わりを通して、よりよい生活・社会の実現を願い、その実現に向けて必要となる資質・能力の育成を目指す。

○具体的取組

- 本校の子どもに育てたい資質・能力に基づき、効果的な教科関連を実現すべく、新学習指導要領に即した教育課程の編成を行う。
- 「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、目指す子どもの姿を、具体的な記述や発言レベルでイメージし、教師の手立てや支援を明確にして単元構想、小単元構想、授業づくりを行う。

2 横浜市学力学習状況調査等からの実態把握

(1) 結果の概要

- 学力に関しては、ほとんどの学年で平均、またはそれを上回る値を示している。
- 学習意識については、概ね市の平均を超える値を示しているが、学年によって差が大きい。
- 生活意識についても、概ね市の平均を超える値を示しているが、学年によって差が大きい。

(2) 学年別の状況

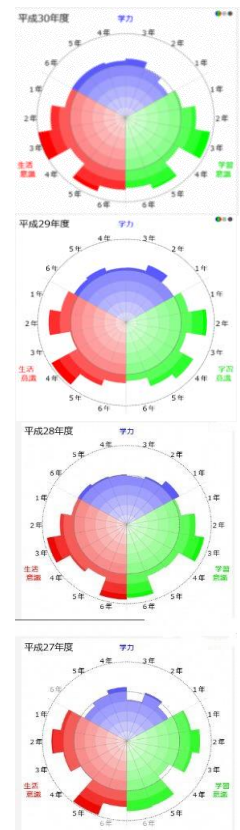
- 低：具体的な実生活の文脈に即して、自分の思いを表現したり、対話的に学習を進めたりするための資質・能力が身に付いている。一方で、文学作品を想像しながら味わったり、抽象的な数値の処理を行ったりすることに関して課題がある。
- 中：活用問題に意欲的に取り組み、問題解決をする力が身に付いてきている。どの教科も意欲が高い。国語では、自分の考えや感想をまとめる力がついていて、語と語や文と文のつながりを考えて書くことには課題がある。算数では、筋道を立てて考えるところに課題がある。
- 高：5年生と6年生では、概ねどの項目においても市平均を超えている。しかし、得意な分野と不得意な分野の違いが見られることから、高学年として2年間でどのような力を身に付けるかを計画的に目標設定し、活用していく必要がある。

(3) 経年変化の状況と要因の分析

平成27年から4年間で、学年や年度によって多少の変動はあるものの、全体的な傾向として学力が向上してきていると読み取ることができる。

その要因としては、生活科・総合的な学習の時間を中心に行ってきた、一時間の課題を明確にすること、全員が手を挙げて話し合いに参加すること、思考ツールを活用して思考を可視化すること、振り返りを書く場面を設定すること、板書の構造化を図り論点や学習のまとめを明確にすること等を、どの教科等の学習でも積極的に行った成果であると捉えている。

今年度は、より一層の基礎基本の定着を目指し、前年度の内容も含め、朝学習や家庭学習で反復学習に積極的に取り組むべく、各学級の優れた取組の共有を図る。また、生活科・総合的な学習の時間を核として、教科関連を積極的に目指していく。



3 令和元年度 学年・教科等としての具体的取組

1年生

- おほようタイムや家庭学習などで、ひらがなや漢字を書く練習、計算練習などに繰り返し取り組み、基礎学力の定着を図る。
- 言葉の語彙を増やし、長音や促音等の正しい表記を身に付け、助詞を正しく使って話したり書いたりする基礎を養う。
- 計算問題などでは、計算の仕方だけでなく、なぜそのような計算になるのか図などを使って考える時間を大切にする。

2年生

- 音読の際に、場面の移り変わりや情景、登場人物の行動を考えながら読むことができるよう、支援する。
- 図や数直線などを使って課題の状況を捉えた上で、自分なりの解決方法を考えたり説明したりできるよう、その活用を支援する。
- 分からないこと表出したり、共に考えたりできる、対話的な雰囲気を引き続き重視し、児童の力が最大限発揮できるようにする。

3年生

- 説明する文や物語を書き、読み合い、書き手の考えの明確さや表現のよさを交流する時間を設ける。
- 実感をもって数量や図形を捉える場を大切に、いろいろな方法で自分の考えを伝えたり表現したりできるような学習を進める。
- 一人一人が自分の思いや考えを伝え、聞き合う中でさらに意欲的にじっくり考えていけるような授業づくりを進めていく。

4年生

- 基礎・基本の定着を図るために、朝学習の時間や家庭学習を活用して、漢字や計算の反復学習を充実させる。
- 見通しと振り返りの時間を授業に取り入れることで、場面を的確に捉えて学習問題を解決できるようにする。
- 図式化や具体物、視覚的に分かりやすい資料の活用や、体験的な調査を通して、より実感を伴う学びにする。

5年生

- 各教科で必要な知識は身につけてきているが、漢字への読み書きに対して苦手意識があるので、反復学習を充実させる。
- 社会・理科の資料や事象を正しく読み取る技能を向上させるため、「何のために」という目的意識をもった学習を進めていく。
- 様々な人や事物との関わりの中で、課題を自分事として捉えて、その解決に向けて自分の思いや考えを伝えられるよう指導する。

6年生

- 意図やねらい・目的について、考えを深めることができるように意図的な発問を工夫していく。
- グラフや表などに表れている内容を読み取り、特徴や変化を捉えられるように、様々な教科で多様な資料に触れる機会を設定する。
- 学習や活動を通してものの見方が変わったり、自分の成長を自覚したりできるように、まとめ・振り返りを意識して行う。

個別支援学級

- 一人ひとりが自分らしさを発揮しながら他者とコミュニケーションをとる行動を大切にする。自分の思いや考えを伝え、共感し、安心感を抱きながら、進んで表現し合う経験を大切にする。
- 個別の指導計画に基づき、一般級での交流学习の充実を図ったり、グループ学習や個別学習などのさまざまな形態での学習を充実させたりして、一人ひとりの課題に合った学習を進めていく。

生活科・総合的な学習の時間

i) 単元構想

子どもの思い・願いに沿って学習材を選定し、探究課題を明らかにすると同時に子どもとともに学習課題(=夢)を設定し、その探究の過程で、子どもに育てたい資質・能力を明らかにし、習得した事実的な知識や気付きが関連付けられ、概念的知識が形成されていく「学びどころ」を意識しながら学習活動の流れを組み立てる。

ii) 小単元構想

単元構想で整理した「学びどころ」を核とした探究の一つ一つの過程について、その時点での子どもの問題意識をもとに、小単元の学習課題を設定し、「課題をもつ」「追究する」「振り返る」の3つの段階で、入口と出口を明確にして構想を立て、それぞれの過程で身に付けさせたい資質・能力を、教科等との関連も意識しながら整理する。

iii) 授業づくり

前時までの子どもの学びの様子をみとり、小単元構想で設定したみとりの視点と照らし合わせながら本時目標を設定し、その目標にせまるために核となる子どもの学びの姿として期待する変容を明確にする。さらに、そのような学びを生み出すための教師のはたらきかけ(=本時のしかけ)を考え、その教師の意図を「本時の学びどころ」として整理し、1時間の授業の計画を立てる。

iv) 子どもの具体的な姿に基づく単元設計・授業計画と評価

上記i～iiiの内容に関して、全教職員の共通理解を図るべく、具体的な子どもの発言や記述のレベルで目指す子どもの姿を共有したり、授業を評価したりする。それによって、「主体的・対話的で深い学び」を志向するPDCAサイクルによる授業改善の実現を目指す。